



令和5年度 四日市市立 教育センターニュース

6月1日発行 No.1

四日市市教育委員会 教育支援課
〒510-0085 四日市市諏訪町 2-2 (四日市市総合会館6階)
TEL 354-8283 (代) FAX 359-0280
ホームページ <http://www.yokkaichi.ed.jp/e-center/>



教育支援課マスコットキャラクター
しえん君

教育支援課 研修・研究グループ

「新たな教師の学びの姿」 ～ 個別最適な教師の学び ～

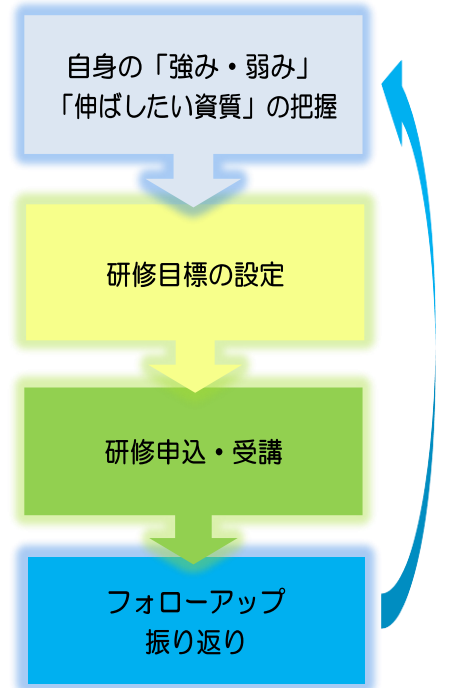
令和5年度から「研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励の仕組み」がスタートしました。これは、教育公務員特例法及び教育職員免許法の一部改正に伴い全国的に実施するものです。その主な目的は以下の2つです。

- ① 研修履歴を活用することにより、自らの学びを振り返る。
- ② 学校管理職等が、対話を通じた適切な指導助言を行うことにより、教員の資質向上を目指す。

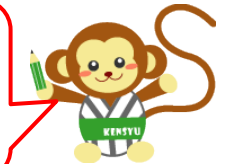
また、子どもたちの学びの転換と共に、教師自身の学び(研修観)は「新たな教師の学びの姿」として示されました。教員一人ひとりにとって最適な学び、グループワーク等の協働的な学びの充実、教師の「主体的・対話的で深い学び」を通して資質・能力の向上につなげていきます。

そこで、四日市市では研修履歴をはじめとした教職員研修に関わる様々な情報を、取得・活用しやすいように「四日市市教職員研修サイト」を整備しました。サイトには多様なニーズに応じて選択できる研修講座、研修会の資料が掲載されています。

教員一人ひとりが「現在の姿」と「将来の姿」の間を埋めるという明確な目的意識をもって、「個々に必要な学び」を選択することが大切です。長期休業期間中の研修講座の募集もまもなく開始します。ご活用ください。



職員室での日常的な対話など、校内における教師同士の学び合いも研修効果を高めます！



ICT活用実践推進校 公開研修会

今年度も ICT 活用実践推進校を設置します。対象2校の公開研修会のいずれかに市立中学校1名以上の参加をお願いします。また、情報化推進リーダー養成講座の必須講座にもなっています。

ICT 機器を授業の中でどのように活用するのかを学べる貴重な機会です。期日が近づきましたら、学校掲示板に案内を掲載します。積極的にご参加ください。

日時	開催校	講師
令和5年10月13日(金)	橋北中学校	茨城大学 准教授 小林 祐紀
令和5年11月17日(金)	西朝明中学校	

授業観のアップデート

GIGA スクール構想4年目となった今年度は、1人1台端末の溶け込みを目指す「浸透期」になります。

【普及期】 ⇒ 【浸透期】
1人1台の日常化 1人1台の溶け込み

子どもたちがデジタルを意識せずに活用
自ら学んでいける授業の実現

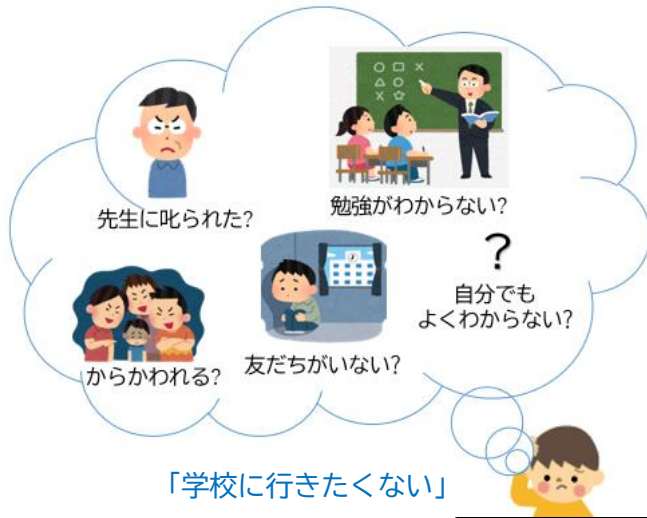
そこで教員の授業観をアップデートするために、茨城大学小林准教授の研修動画を活用した研修を、昨年度、各校で実施しました。この動画は令和5年8月まで視聴可能ですので、必要に応じてご活用ください。 ※ 四日市市教職員研修サイトに動画が掲載されています。



登校サポートセンター(ふれあい)

子どもを「真ん中」に置いて、学校と保護者が手をつないでいくために

行き渋りが始まった時、学校と保護者の間で、このようなことが見られることがあります。



学校に行けない理由は、本人しかわからない。
ひょっとして本人もわかっていないかも…

先生も保護者も、
「何が原因なんだろう」
「解決すれば、すぐに登校で
きるようになるはず」
と考えたくなります。



場合によっては…

「どうして行けないの？」
「何かあったの？」

聞いてみると…

先生に叱られた
時に怖かったと
言ってます

友だちに悪口を
言われているみ
たいです

勉強がわからな
いみたいです

学校で一人で過
ごすことがある
みたいです

(対応例)

子どもは聞かれたことには、自分なりに何とか返そうとします。でも、相手によっても、聞き方によっても答えが変わることがあります。

お子さんにづらい思いをさせてしまいましたが、よく話してくれたと思います。「思いを話してくれてありがとう」とお伝えください。今後については「学級で話し合う方がいいのか、先生と一緒にどうしようか考えるのがいいのか」など、本人の気持ちに沿って、同じような辛い気持ちを味わわせないように対応していきます。また登校についても、お子さんにはまだ不安はあると思いますが、「今、学校で何を、どの程度ならできるか」をお子さんと確認しながら、日常に戻れるよう進めます。

CHECK!

問題の解決を進めるとともに、子どもの居場所と学習機会の確保を進めましょう！

生徒指導提要 (2022.12 文部科学省)に、「…(前略)…『なぜ行けなくなったのか』と原因のみを追求したり、『どうしたら行けるか』という方法のみにこだわったりするのではなく、どのような学校であれば行けるのかという支援ニーズや、…(中略)…も含め、不登校児童生徒の気持ちを理解し、思いに寄り添いつつ、アセスメントに基づく個に応じた具体的な支援を行うことが重要です」とあるように、この内容を保護者に時間をかけて説明することは大切です。必要と思われる内容は、以下の3点です。

- 1 子どもが話す問題の解決に向けた学校の方針と方法
- 2 子ども居場所と学習機会の保障のための学校の方針と方法
(問題の解決と並行して進めていくこと。子どもを中心に据え子どもができることから行うこと。)
- 3 同じことが起こらないようにするための学校の方針と方策